

桜蔭俳話会 三月句会(第三六三回)

平成三十年三月二十五日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

3点	②度の合はぬメガネずり落つ春炬燵	友子
3点	下萌や義足走者は風を切り	才美
3点	月朧N A S Aの数式掴みだす	才美
2点	①盲導犬訓練所跡花の雨	明美
2点	漆黒の空に端正白木蓮	ヤエ子
2点	おほかたは切られし幹の桜かな	かほる
2点	下萌や兵士土偶の耳飾り	才美
2点	三度病み過ごす大寒実万両	幸
2点	付度のかたち朧に特捜部	明美
1点	①生きものに風のゆりかご花みもぞ	才美
1点	①ころころと笑ふ少女や下萌ゆる	幸
1点	①型通り生きて潰へる春の雪	眞壽
1点	マニキュアの桜貝色新社員	幸
1点	我が胸に積もりて溶ける春の雪	眞壽
1点	はこべらや一品増へし夕餉膳	ヤエ子
1点	原因のわからぬ痛み木の芽雨	かほる
1点	竹の秋アバンギャルドの髪の色	明美
1点	知らぬ子の挨拶美しき初桜	明美
1点	谷底の真白き梅をたれぞ見む	ヤエ子
1点	相続のおほりし家の春障子	かほる
1点	髪梳いて乗りし自転車草青む	守
1点	お茶受けの菓子に花の名春の昼	幸
1点	気まぐれの日記も嬉し春日永	邦子
1点	春帽子鏡の中に聴く潮	才美
1点	花の閨戦後の疑獄またひとつ	明美
1点	一草の萌えて祈りのかたちかな	守
1点	雛も又古希なり共に生きゆかむ	友子
1点	残雪やこの世の澱を吸ひ尽くす	友子
1点	マニキュアの定石打つや春日和	かほる
1点	十字架は天へ向きけり初桜	守
1点	戸籍課の窓口に立つ紙雛	才美
1点	老梅の満開の日の葬儀かな	邦子
1点	御代変はり近づく国の初桜	明美
1点	うららかや我も我もと失敗談	友子
1点	海苔一帖おまけ二帖の浜の小屋	ヤエ子
1点	海峡の空の真青や初桜	守
1点	鬨ぎ合ふ国会論戦春嵐	明美

※

老人の軍歌唄ひし花見かな	明美
わだかまり解けぬ言いわけ春の宵	幸
「ありがとう」の絶筆ゆかし紅椿	友子
春の宵肋骨骨折仕事人	直子
鴉去り鶯高く鳴きにけり	ヤエ子
地虫出づそれぞれ守る居場所かな	守
春荒の破れ傘あまた無惨なり	ヤエ子
陽炎に旗立て現るる鼓笛隊	才美
塾バッグ見まもり隊の春夕日	かほる
木の芽吹く雑草緑讚え合ふ	直子
見比ぶる卒業アルバム古希の宴	友子
下萌や鉄看板のたばこあり	かほる
許されぬ忍び逢ふ恋春の雪	眞壽
たんぽぽや浄化訴ふ岸のピラ	ヤエ子
夕影や水辺の里の梅百花	明美
ひな段の三度買ひたるあられかな	かほる
下萌へ照準合はすキイライト	才美
白梅は散り露の薔顔を出す	直子
白梅や満開を見て酒うまし	直子
春浅く大雪達磨生まれけり	邦子
なほ解けぬ神の沈黙初桜	守
並び立つ古窯の煙り初桜	守
福貌の宿の娘や雛祭	ヤエ子
残されし命短かし春の雪	眞壽
下萌てベランダ見上げ影を追う	眞壽
熱のこる骨拾ひたる夜寒かな	守
残されし刻なき恋や春の雪	眞壽
パレードの旗ひるがへり花の街	明美
草萌やよちよち歩く赤き靴	友子
産声や優しき衣に纏われり	ヤエ子
初蝶二羽オーブンカーに乗るところ	才美
汁椀に香り加えし露の臺	邦子
春の駅非常ボタンの押されたり	かほる
杖ついて雪道歩く三本足	直子
鴉鳴く桜囲みて体操会	ヤエ子
競り市の鐘止みにけり朝桜	守
白梅や埃とどかぬ裏通り	邦子
突つ張り稽古は芽吹く大樹や亡き文士	友子

雛祭り手作り菓子桃の香 直子
坂多き街の水源初桜 守
北鮮や平昌五輪に成果有り 直子
早朝の間違ひ電話春の闇 かほる
屍を埋めし数だけ草萌ゆる 才美
少年の指す駒の音や冴返る 友子
けいさつのメール信じてヒヤシンス かほる
天を突く花モモの色美しきかな 幸
下萌や見つめたいけど斜に見る 眞壽

(欠席投句 古野明美、藤本友子、恩田才美、
京林眞壽)

「事務局からお知らせ」

○四月句会

四月二十二日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。
兼題は、「アネモネ」です。

○五月句会

五月二十六日(土)、山下公園で吟行します。
詳細は、追ってお知らせします。